

全東京写真連盟
撮影会写真コンクール
入賞作品集



審査対象 国営昭和記念公園モデル撮影会

撮影日 2023年04月16日

審査日 2023年06月11日

審査員: HARUKI 先生



金賞
「スマイル」
岸野 孝博 様
モデル 美冬

審査員：HARUKI先生 講評

審査時、数多く並べられたプリント作品の中でひとときわオーラを放つように画面全体から若さから発揮される光線が、見ているこちら側へ向かって1枚のプリントから飛び込んできました。それがこのプリントでしたが、「爽やか」や「清らか」という言葉がシックリくる一葉のような例えであることが、こちらの作品が持つ圧倒的なピュアな印象が金賞となった最大の要因です。春らしいとてもストレートな良い作品だと思います☆



銀賞
「あこがれ」
鵜飼 典彦 様
モデル 彩

審査員：HARUKI先生 講評

昔のアナログカメラをモデルに持たせての撮影。よく見ると38mm レンズ付きのミノルタ・ハイマチックF。ボクが写真を撮り始めた年に発売されたカメラで当時の大ヒット商品です（笑）。話が横道に逸れてしまいましたが、銀塩時代のカメラが若い人たちに人気の昨今では、旧型カメラもまた実用的な撮影目的だけではなくてアクセサリーアイテムの一つとなっています。現代アートのような彫刻オブジェの前で若い女性モデルがそれを持つのはとてもお似合いですし今風のお洒落となっています。笑顔とマッチしていますネ☆



銅賞
「森の女神」
高橋 壯太 様
モデル 美菜

審査員：HARUKI先生 講評

まるで深い森の中に居るかのような暗いトーンの樹木が覆う中、ドレスシーな衣装に身を包んだモデルが佇む姿は女性誌のファッションページのような気品高い印象を与える作品となりました。モデルさんの着ているベルベットの衣装のロイヤルブルーと足元に散らばっている椿の花の赤い色味の掛け合わせがパンチとなって効いています。光線が届かないフラットな場所での、広角レンズを使っの近接ポートレートは良いですねえー！！



入選
「水鳥の池」
松岡 達雄 様
モデル 大橋 めりさ



入選
「春の笑顔」
内藤 勝之 様
モデル 花瀬 凜



入選
「読書の春」
小野寺 基之 様
モデル 花瀬 凜



入選
「春の願い」
守屋 久 様
モデル 野村 ひとみ



入選
「長い髪で遊ぶ」
山本 和也 様
モデル Chiori



佳作
「午後」
湯原 章綱 様
モデル 花瀬 凜



佳作
「tomorrow」
小倉 良二 様
モデル 鈴木 さくら



佳作
「窓際のお姫様」
米沢 健二 様
モデル Chiori



佳作
「青空の下で」
新井 潔 様
モデル 鈴木 さくら



佳作
「みつめる先に」
猿田 善和 様
モデル 彩



佳作
「公園のオブジェにて」
金澤 義夫 様
モデル Chiori



佳作
「牡丹の咲くころに」
松沢 秀典 様
モデル 大橋 めりさ



佳作
「優しい椿」
三井 直人 様
モデル Chiori



佳作
「壁際の麗人」
村岡 雅之 様
モデル Chiori



佳作
「ひみつの花園」
北条 善久 様
モデル 鈴木 さくら



次点
「木かげから」
堤 博史 様
モデル 大橋 めりさ



次点
「フレッシュ・ガール」
栗原 恵一 様
モデル 美冬



次点
「あじさいと椿の上で」
滝本 憲一郎 様
モデル 鈴木 さくら



次点
「椿姫」
豊田 光司 様
モデル Chiori



次点
「森の家」
山田 栄一 様
モデル Chiori



次点
「高2の春」
斎藤 貴生 様
モデル 美冬



次点
「陽光に照らされて」
井原 亮祐 様
モデル 大橋 めりさ



次点
「横顔」
伊能 信一郎 様
モデル 大橋 めりさ



次点
「まったり」
大村 勇二 様
モデル 花瀬 凜



次点
「あおる」
米村 允男 様
モデル 美菜

【 撮影時の光の使い方を試してみる 】

全東京写真連盟の皆さん、こんにちは。

ジメジメした梅雨時ですがいかがお過ごしですか。皆さんのことですので梅雨なんかには負けないで撮影をされているものと信じております（笑）

さて、撮影会でのライティングというところ大勢での撮影ですのでなかなか自分の思うようにはいかないことも多いでしょう。皆と同じライティングで撮って、その中で出来る事のアングルやシャッターチャンスの違いでの勝負というのも魅力の一つではあります。基本的にはレフ板からの光線を当てての撮影が一般的には多いかと思います。レフ板も銀レフ、白レフ、時には金レフ（日本人の肌色にはあまり向いていませんが）を使用したり、そしてレフ板のように光を当てるのではなくて逆に太陽光を覆ってのデュフーザーでの撮影という手法もあります。ボクたちプロの間では光線が強い場合によく使うのがこのデュフーザーです。敢えて光線を遮っての表現が向いている場面もあります。モデルさんの顔まわりを曇り日のようなフラット光線にする等。そしてストロボを補助光として使う日中シンクロ撮影もあります。昔はなかなか難しい撮影技法でしたがデジタルになってからはカメラ側の機能やストロボ性能が良くなっていますし、なんといってもすぐに確認チェックが出来るのですから今の時代は天国ですね。

普段はレフ担当さんが決めた「レフ板」でしか撮ったことがないという方々。途中で係の人にレフ板を変えてもらったり、自らストロボを補助光として使って効果の違いを出してみるのも良いかと思います。

皆さんと同じ撮影条件でありながら、光コントロールで差を付けてちょっと違った表現を試みてもみるのも楽しいですよ☆

HARUKI